

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
 TEL 03-3586-5843
 FAX 03-3586-5846
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

〈今月の紙面〉

- ・〈緊急寄稿〉やはり「失うだけの日米FTA」(2面)
- ・20年度農林水産予算概算要求の重点事項(3面)
- ・秋の農作業安全確認運動スタート(4面)
- ・ホウレンソウ 土壌消毒剤の混和・ビニール被覆省略(5面)
- ・牧草地雑草「イタドリ」サイレーシ化(6面)
- ・肥育牛ふん堆肥 暗きよ管設置で発酵促進(7面)
- ・畜産物需給見通し(8面)

概算要求18・2%増、2兆7307億円

20年度農水予算 輸出、スマート農業に重点

農水省は8月30日、20年度農林水産関係予算の概算要求を決定し、財務省に提出した。総額は、今年度当初予算に比べ18・2%増の2兆7307億円となった。農林水産業の成長産業化に向けて、農林水産物・食品の輸出力強化や「スマート農業」の導入・実証の推進などに重点を置いた。消費・安全対策では、家畜伝染性疾患及び重要病害虫関係の予算を大幅に増やした。

2020年度農林水産予算概算要求の骨子 (億円、%)

区分	2020年度 要求・要望額	2019年度 予算額	前年度比
農林水産予算総額	27,307	23,108	118.2
公共事業費	8,436	6,966	121.1
一般公共事業費	8,240	6,770	121.7
災害復旧等事業費	196	196	100.0
非公共事業費	18,871	16,142	116.9

予算の内訳は、公共事業費が19年度当初予算比21・1%増の8436億円、非公共事業費が16・9%増の1兆8871億円を新規で要求した。重点事項のうち、農業関係は6つ。まず、「農林水産物・食品の政府一体となった輸出力強化と高付加価値化」を柱に掲げた。輸出先国の輸入規

制への政府一体での対応を実現するための司令塔組織の創設に15億円、輸出手続の迅速化に7億円を新規で要求した。生産段階での食品安全確保への対応強化は今年度当初予算比13億円増の19億円を計上し、輸出先国から求められる生産段階の食品安全等の規制に対応する。グローバル産

地づくりの強化は14億円増の16億円を計上し、輸出先国の検疫条件を満たす農産物の生産などを支援する。2つ目の柱は「スマート農業」の実現と強い農業のための基盤づくり。スマート農業総合推進対策事業に約10倍の51億円を要求した。自動運転農機やドローン、ロボットなど最先端技術の現場への導入・実証に加えて、地域での戦略づくりなどを支援する。強い農業・担い手づくり総合支援交付金は66億円増の296億円を計上。農業用機械・施設の導入を支援するとともに、核となる農業者と事業者が一体となって、安定供給を実現する新たな生産モデルの構築も支援する。また、畜産・酪農の競争力強化のため、畜産・酪農経営安定対策は所要額として、6億円増の2230億円を計上した(3面に畜産・酪農関係の事業を掲載)。

農水大臣に江藤拓氏

第4次安倍再改造内閣が発足

大臣や衆議院農林水産委員会委員長などを歴任。昨年10月の内閣改造で首相補佐官に就任し、「ふささ」との推し進め及び農林水産物の輸出振興を担当してきた。就任記者会見で、食料自給率や自給力の強化に向け、「まずは生産基盤をしっかりと確保しなければならぬ」と述べた。また、副大臣には伊東良孝氏(70歳、自民、衆・北海道7区、当選4回)と、加藤寛治氏(73歳、自民、衆・長崎2区、当選3回)が就任した。

肉免延長盛り込む 農水省20年度税制改正要望

A重油に対する石油石炭税の免税・還付措置の3年延長、肉用牛の売却による農業所得の課税特例措置の3年延長などを盛り込んだ。新規・拡充措置関係では、認定新規就業者が一定の貸し付けを受けて機械などを購入した場合の課税標準の特例措置の創設(固定資産税)などを要望している(3面に概要掲載)。

貿易協定署名に向けて加速

日米首脳会談で一致

日米両政府は8月21日から3日間、米ワシントンで貿易協定交渉に関する関係会合を開き、農産品、工業品の主要項目について、意見の一致をみた。25日にはフランスで日米首脳会談が開かれ、関係会合の結果を確認するとともに、9月末の協定の署名を目指し、残された作業を加速させることと一致した。4月に開始された交渉の早期妥結が危惧される。

協定は昨年12月に発効し、農産品の関税率などは、4月から2年目の水準となっている。TPPを離脱した米国の競争力が落ちている。米国は交渉で農産品、特に牛肉及び豚肉の市場開放を強く求めた模様。品目ごとの具体的な交渉内容は明らかになっていない。

今年度の全国開拓青年・女性研修会は、全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会の開拓中央三団体共催により、10月16日から18日までの3日間、青森県下で実施される。このほど開催要領がまとまり、事務局の全日本開拓者連盟は、三団体役員宛に要領と参加申込書を送付した。100名の参加を予定している。

全国開拓青年・女性研修会開催

10月16~18日 青森県下で 講演と現地視察

1日目は、八戸市番町「八戸グランドホテル」に集合し、講演・懇親会を行う。講師は、八戸市出身のチームフロー認定メンタルプロコーチ・津村征広氏。津村氏は、人材育成研修、学校及び部活などのコーチングで、多くのクライアントからの要望に添えている。講演では「元気が出る心のスイッチ」が話題。3日目は朝食後、自入方々人生や仕事を由解散する。

和牛遺伝資源の管理保護室新設

20年度農水省

農水省は8月30日、20年度組織・定員要求を公表した。和牛遺伝資源の流通管理の適正化や保護の強化を図るため、「家畜遺伝資源管理保護室(仮称)」を設置することにも、優良な植物品種の

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

20年度農林水産予算概算要求の重点事項

農水省が決定した20年度農林水産関係予算概算要求のうち、「『スマート農業』の実現と強い農業のための基盤づくり」とする重点事項の主な事業と要求額は次のとおり。要求額の内は、19年度当初予算額。

(1)「スマート農業」の社会実装の加速化とイノベーション・技術開発の推進

①スマート農業総合推進対策事業 51億円(5億円)

最先端技術の現場への導入・実証に加えて、地域での戦略づくり、情報発信や教育の推進、農業データ連携基盤(WAGRI)の活用促進のための環境整備等の「スマート農業」の社会実装に向けた取り組みを総合的に支援

②ICT(情報通信技術)を活用した畜産経営体の生産性向上対策 233億円の内数(201億円の内数)

酪農家や肉用牛農家の労働負担軽減・省力化に資するロボット、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)などの先端技術の導入や、畜産農家に高度かつ総合的な経営アドバイスを提供するためのデータベース構築を支援

(2)農業農村基盤整備

①農業農村整備事業 3978億円(3260億円)

農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化や豪雨・耐震化対策等を推進するとともに、スマート農業の基礎インフラとして、先端技術の利用に必要な無線局等の整備、ICTを用いた水管理省力化技術の導入等も推進

②農山漁村地域整備交付金 1113億円(927億円)

地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策に必要な交付金を交付

(3)持続的な農業の発展

①新規・拡充措置に関する要望

(1)認定新規就農者が一定の貸付けを受けて機械等を取得した場合の課税標準の特例措置(5年間、標準の1/2控除)

(2)農業競争力強化支援法に基づく事業再編計画の認定を受けた場合の事業再編促進機械等の割増償却(機械・装置40%、建物等45%)の対象業種の拡充(所得税・法人税)

(3)既存措置に関する要望(概要)

(1)農業経営基盤強化準備金制度(交付金を準備金として積み立てた場合及び同準備金・交付金を活用して農用地などを取

②畜産生産体制の強化

①畜産・酪農経営安定対策(所要額) 2230億円(2224億円)

畜種ごとの特性に応じた畜産・酪農経営の安定を支援

②畜産生産体制の強化

強い農業・担い手づくり総合支援交付金296億円の内数(230億円の内数)、畜産生産力・生産体制強化対策事業16億円(14億円)

離農予定の畜産経営体が行う生産性向上や販売力強化に向けた取り組みや、地方公共団体が主導する産地全体の発展を図る取り組みを総合的に支援

③野菜価格安定対策事業(所要額) 155億円(157億円)

野菜生産・出荷の安定と消費者への安定供給を図るため、価格低落時に生産者補給金を交付

(4)畜産・酪農の競争力強化

①畜産・酪農経営安定対策(所要額) 2230億円(2224億円)

畜種ごとの特性に応じた畜産・酪農経営の安定を支援

②畜産生産体制の強化

強い農業・担い手づくり総合支援交付金296億円の内数(230億円の内数)、畜産生産力・生産体制強化対策事業16億円(14億円)

離農予定の畜産経営体が行う生産性向上や販売力強化に向けた取り組みや、地方公共団体が主導する産地全体の発展を図る取り組みを総合的に支援

20年度農水省税制改正要望

1 新規・拡充措置に関する要望

(1)認定新規就農者が一定の貸付けを受けて機械等を取得した場合の課税標準の特例措置(5年間、標準の1/2控除)

(2)農業競争力強化支援法に基づく事業再編計画の認定を受けた場合の事業再編促進機械等の割増償却(機械・装置40%、建物等45%)の対象業種の拡充(所得税・法人税)

2 既存措置に関する要望(概要)

(1)農業経営基盤強化準備金制度(交付金を準備金として積み立てた場合及び同準備金・交付金を活用して農用地などを取

得した場合の経費算入)

(2)農林漁業用A重油に対する石油石炭税(地球温暖化対策のための課税の特例による上乗せ分を含む)の免税・還付措置(貸付期間10年以上で、3年間、課税標準の1/2控除等)の2年延長(固定資産税・都市計画税)

(3)農林漁業用軽油に対する石油石炭税(地球温暖化対策のための課税の特例による上乗せ分)の3年延長(所得税・法人税、個人住民税)

(4)農地中間管理機構への貸付けによる農地の利用の効率化及び高度化の促進を図るための農地保有に係る課税の軽減措置(貸付期間10年以上で、3年間、課税標準の1/2控除等)の2年延長(固定資産税・都市計画税)

(5)肉用牛の売却による農業所得の課税特例措置の3年延長(所得税・法人税、個人住民税)

記念碑と記念広場

高知県南国市・日章開拓地



高知県南国市の高知空港の前身は、1944(昭和19)年に設置された日本海軍の日章第一海軍航空基地。空港と南西の水田地帯との間に、日章開拓農協が建立した記念碑などがある。

41年、海軍は香美郡三日章村(現・南国市の物部川河口部)が発足した。

85年3月、農協解散に際し建立された記念碑の刻銘は「開拓記念碑」(写された。農地に戻すために、住民らは日章開拓農協を設立。組合員は、失った古里の再興のため、汗だまみれ、ひたすら開拓の鋤をとった。

しかし、国と県は、859反を高知大学の設立用地、空港用地などに決定。組合員の全土払い下げの悲願は断たれた。さらに83年、滑走路の延長や空港敷地の拡張が行われた。2年後、開拓農協は解散することになった。

島村(当時)に航空基地を建設するため、2184反の土地を接収。263戸、1500人余りの住民は急遽、退去を命じられた。翌年、人口が激減した三島村は、同郡の田村、立田村と合併し、日章村(現・南国市の物部川河口部)が発足した。

85年3月、農協解散に際し建立された記念碑の刻銘は「開拓記念碑」(写された。農地に戻すために、住民らは日章開拓農協を設立。組合員は、失った古里の再興のため、汗だまみれ、ひたすら開拓の鋤をとった。

道と県土夜明けの空の道とやらんことを」と刻まれている。

近くに、日章開拓農協が同年同月に設けた広場があり「石碑記念広場」が建立されている(写真⑤)。裏面には、唱歌「ふれには抗し難し 古里再るさ」との歌詩と広場の由来が記されている。

理を新たに支援することにも、資源循環の促進等

③畜産環境対策の高度化 同(230億円の内数)、持続的生産強化対策事業233億円の内数(201億円の内数)

④草地関連基盤整備 93億円(83億円)

畜産経営規模の拡大や畜産生産地の形成に資する飼料生産の基盤整備等を推進

理を新たに支援することにも、資源循環の促進等

③畜産環境対策の高度化 同(230億円の内数)、持続的生産強化対策事業233億円の内数(201億円の内数)

④草地関連基盤整備 93億円(83億円)

畜産経営規模の拡大や畜産生産地の形成に資する飼料生産の基盤整備等を推進

新理事長に伊藤氏 北海道チクレン

北海道チクレン農協連合会は8月23日、通常総会を開催し、新体制に移行し始めた。

直後の89(平成元)年に開始した。

08年に第一句集「ちふり野」を上梓。14年に「米寿の呓」を発行した。今回は「身辺詠に重点を置き、それに自註を加えること、自史の補完も兼ねよう」と思い、第一句集より、稲敷市の「聖苑香澄」で執り行われた。

元・全国開拓農協連合会代表理事組合長で、ジャパンプーフ農協代表理事組合長、全国開拓農協会理事などを歴任した野口正次さんが、8月18日、稲敷市の「聖苑香澄」で執り行われた。

元・茨城県開拓農協連合会代表理事組合長で、ジャパンプーフ農協代表理事組合長、全国開拓農協会理事などを歴任した野口正次さんが、8月18日、稲敷市の「聖苑香澄」で執り行われた。

新刊紹介

開拓中央三団体に「ちふり野」を贈った開拓者の著書を紹介。

「ちふり野II」 中込とし郎 著



8月15日発行(私家版)、A5判、195頁。

開拓組織の動き

- 9月後半から11月上旬にかけて予定されている、開拓組織及び関係機関の行事は次のとおり。
- 9月
 - 20日 薩州開拓農協第12回通常総会
 - 21~29日 全国開拓農協協会海外研修事業(ヨーロッパ)
 - 30日 全開連役員候補者推進会議・理事会・監事会
 - 10月
 - 1日 全開連事業概況説明会(東京会場)
 - 3日 同説明会(福岡会場)
 - 10日 ゼンカイミート(株)株主総会
 - 11日 宮崎県乳用牛肥育事業農協肉共進会(熊本)
 - 16~18日 全国開拓青年・女性研修会(青森)
 - 29日 全国開拓農協協会理事会
 - 30日 全開連第71回通常総会・理事会・監事会
 - 11月
 - 8日 全開連東日本地区開拓牛枝肉共進会(東京食肉市場)
 - 全開連西日本支所九州農政局との意見交換会(熊本)
 - 12日 全国開拓農協協会講演会(岩手)

リスク見直す時間確保が重要

秋の農作業安全確認運動スタート

農水省はこのほど、「秋の農作業安全確認運動推進会議」を省内にて開催した。運動の重点推進テーマは前年に続き、「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」としている。危険だと分かっていたにも関わらず、つい反射的に行動してしまい事故に遭うケースが絶えないため、注意を促す。

運動期間は9月1日～10月31日。新たに「農業機械の整備・点検の促進」が取り組みに加わり、日々の点検を求める。17年度の農作業中の事故死亡者数は304人で、前年から8人減少した。しかし依然として毎年300人を超える生産者が亡くなっており、事故を未然に防ぐ取り組みが重要となる。

取り組み内容は、①GAPの周知実践の促進、労働時の安全管理への取り組みの推進②生産者のみでなく、その家族などにも安全意識の向上を図るとともに、回覧板や広報などを用いて一人でも多くの生産者に情報を届ける③重大な事故を招く恐れがあることから、機械の日常的・定期的な整備や点検の促進④生産者が参加する会議や集会など農作業安全の話題を取り上げ、「プラス安

全」の取り組みの定着化を図る⑤地域ごとの防災特別加入団体の設置と加入の促進などとなっている。

家族対策会議を会議では、特に①の取り組みについて、関係者の事例報告を基に注意喚起が行われた。同省の担当官は、事例発表でのGAPへの取り組みを踏まえ、家族経営に安全対策を取り入れるために、まずは家族全員で集まって危険を洗い出しておく時間を持つことが重要だと訴えた。日々の忙しさに流されず、ヒヤリハットなど作業中に危険だと感じたことは記録に残し

て必ず対策を打つことを求めた。また、行き帰りが安全で初めて安全であるといえるため、天候の悪化などの際に、後から晴れても判断を後悔せず、早めの判断で命を守ることを求めた。

機械・現場のリスク除去が重要

農研機構農業技術革新工学研究センターの積栄ユニット長は、③に言及し、「コンバインの手こぎ作業について、取り扱い説明書にきちんと安全な方法が書いてあるのに、確認せずに我流で使ったために事故が発生している」と指摘した。

この他にも、危険だと

好きな野菜「キャベツ・タマネギ上位

パッケージサラダは若年層で人気

㈱サラダクラブはこのほど、「サラダ白書2019」を公表した。同白書は、サラダの食文化を把握するために、全国20～69歳の男女2060人を対象に行なった。

野菜を購入したことがあ

る人が半数を占め、若年世代ではパッケージサラダ(野菜を食べやすくカットした、そのまま食べられるサラダ)が多く好まれるなど、世代で食べ方に違いがみられた。

全体「好きな野菜(複数回答)」では、キャベツが65.1%で最も高く、次いでタマネギ64.8%、レタス60.3%の順だった。男女別では、女性がカボチャ、ブロッコリーで20.8%、ナス15.3%、トマト12.3%高かった。一方で、男性は、ピーマン12.4%高かった。

野菜を購入したことがあ

る人が半数を占め、若年世代ではパッケージサラダ(野菜を食べやすくカットした、そのまま食べられるサラダ)が多く好まれるなど、世代で食べ方に違いがみられた。

全体「好きな野菜(複数回答)」では、キャベツが65.1%で最も高く、次いでタマネギ64.8%、レタス60.3%の順だった。男女別では、女性がカボチャ、ブロッコリーで20.8%、ナス15.3%、トマト12.3%高かった。一方で、男性は、ピーマン12.4%高かった。

野菜を購入したことがあ

る人が半数を占め、若年世代ではパッケージサラダ(野菜を食べやすくカットした、そのまま食べられるサラダ)が多く好まれるなど、世代で食べ方に違いがみられた。

全体「好きな野菜(複数回答)」では、キャベツが65.1%で最も高く、次いでタマネギ64.8%、レタス60.3%の順だった。男女別では、女性がカボチャ、ブロッコリーで20.8%、ナス15.3%、トマト12.3%高かった。一方で、男性は、ピーマン12.4%高かった。

分かっていたにも関わらず反射的に行動してしま

い、重大な怪我を負ったケースを挙げ、意識するだ

日本茶輸出量 前年比5.4%増

19年上半期 北米・台湾が6割

日本茶輸出促進協議会はこのほど、「日本茶輸出実績(19年1～6月)」を公表した。財務省貿易統計を基に、68カ国への輸出結果を分析した。北米、台湾が全体の輸出量の6割を占めた。前年

から大きく増えた国が多く、輸出額で粉末状の緑茶が全体の6割を占め、世界的な抹茶ブーム増加した。

68カ国の粉末状(抹茶)及び粉末茶)とその他茶(煎茶)を合わせた合計輸出量は251万9100箱で、前年同期に比べ

2019年1～6月 日本茶輸出実績

順位(年度)	19	18	17	国名	2019年1～6月						2019年単価	2019/2018			
					輸出量			輸出額				粉末状金額比率	輸出量	輸出額	単価
					粉末状	その他	計	粉末状	その他	計					
1	1	1	1	米 国	491,133	295,644	786,777	2,269,508	1,175,102	3,444,610	66	4,378	110%	115%	105%
2	2	2	2	台 湾	42,298	661,717	704,015	138,756	582,392	721,148	19	1,024	110%	99%	91%
3	3	3	3	ド イ ツ	71,298	65,496	136,794	431,752	166,961	598,713	72	4,377	104%	107%	104%
4	4	5	5	シンガポール	85,093	62,303	147,396	315,891	149,661	465,552	68	3,159	94%	94%	101%
5	6	6	6	カ ナ ダ	39,161	62,221	101,382	153,623	183,292	336,915	46	3,323	108%	111%	102%
6	5	4	4	香 港	45,744	29,763	75,507	203,079	126,311	329,390	62	4,362	82%	68%	83%
7	12	13	13	インドネシア	89,964	12,950	102,914	189,595	22,665	212,260	89	2,062	233%	251%	108%
8	7	7	7	タ イ	78,286	19,954	98,240	161,309	45,788	207,097	78	2,108	79%	92%	115%
9	9	8	8	フ ラ ンス	12,371	37,180	49,551	60,511	83,094	143,605	42	2,898	97%	97%	100%
10	8	9	9	マレーシア	36,558	62,510	99,068	61,411	66,768	128,179	48	1,294	121%	97%	80%

財務省貿易統計・同協議会資料から作成

米 国への輸出量は78万6777箱(前年同期比9.5%増)でトップ。EU加盟国では、ドイツが13万6794箱(3割増)と最も大きい。カナダと合わせた北米の合計量は88万8159箱で、全体の35.3%を占めており、増加をけん引している。輸出額は37億8153万3405箱(43.7%増)で、全体の51.8%を占めた。

EU加盟国では、ドイツが13万6794箱(3割増)と最も大きい。カナダと合わせた北米の合計量は88万8159箱で、全体の35.3%を占めており、増加をけん引している。輸出額は37億8153万3405箱(43.7%増)で、全体の51.8%を占めた。

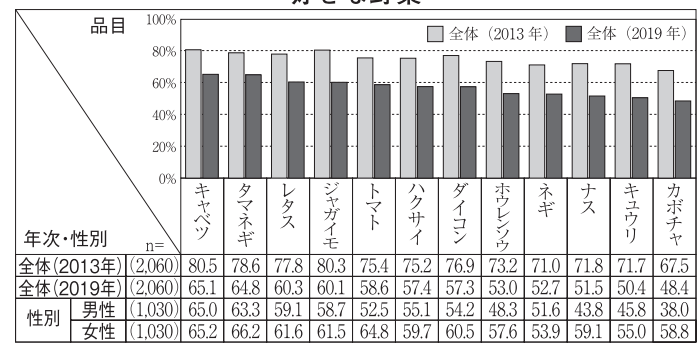
EU加盟国では、ドイツが13万6794箱(3割増)と最も大きい。カナダと合わせた北米の合計量は88万8159箱で、全体の35.3%を占めており、増加をけん引している。輸出額は37億8153万3405箱(43.7%増)で、全体の51.8%を占めた。

低温で前年産比11%減

19年産一番茶生葉収穫量

農水省がこのほど公表した「19年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量(主産5県)」によると、生葉収穫量・荒茶生産量は前年の増産から転じ、それぞれ11%、10%減少した。

生葉収穫量は前年から1万4100ト減の2万7100トで、3割減少した。10a当たり4万3800ト(5.8%減)、三重が1万2500ト(11.3%減)だった。荒茶生産量は、静岡県が1万1000ト(13.4%減)、鹿児島8270ト(5.7%減)、三重2480ト(11.1%減)の順。5県とも生葉収穫量・荒茶生産量・10a収量はすべて減少した。一方、摘採面積では、埼玉が629トで4.5%増加し、京都・鹿児島は前年並みだった。



購入意向では女性が男性よりも14.9%高い。オーガニック野菜を購入したことがあるかでは、男性36.7%、女性が43.3%で、女性は6.6%高かった。

野菜の産地に対する意識では、「なるべく国産野菜を買う」52.0%、「なるべく地元の野菜を買う」20.0%で、合わせて7割を超える人が国産・地元の野菜を買いたい意向を示した。なるべくな産地(16年)から4.0%増加した。

最も購入したいオーガニック食品(同)では、野菜42.4%が最も高く、次いでサラダ22.3%、フルーツ21.4%だった。価格は、「価格は

増と増加率が大きかった。輸出額も543万73.4%増と大きく伸びた。他にも、英国・ポルトガルなどで増えた。アジアでは、台湾が70万4015箱(9.8%増)で全体の27.9%を占めたが、輸出額では微減だった。インドネシアでは、輸出量が10万2914箱(133.1%増)、輸出額が2億1226万円(151.2%増)と、前年から増加した。インドは、輸出額がそれぞれ6611箱(606.3%増)、1367万円(450.8%増)と大きく伸びている。輸出量・額ともに大きい香港は7万5507箱(17.9%減)と、今後の展開が懸念される。中国の抹茶生産が増加しているため、引き続き日本茶の美味しさをアピールし、国内のみでなく海外での人気も盤石にすることが望まれる。

山口県農林総合技術センター

ハウレンソウ 土壌消毒剤の混和・ビニル被覆省略
簡易処理でコナダニに防除効果

難防除害虫「ハウレンソウケナガコナダニ」は土中に生息する0.4mm程度の小さい虫で、施設ハウレンソウで新芽を食害するが、確認が困難で気づかぬうちに被害が拡大していることも多い。

山口県農林総合技術センターは、同虫防除において、低コスト・省力的な簡易処理を考案した。土壌消毒剤「カーバムナトリウム塩液剤(以下、同剤)」を散布した直後の土壌混和とビニール被覆を省略するというもの。2つの試験で効果を確認した。

試験1

16年9～11月に県内農家ほ場で試験を行い、同剤散布時の混和とビニール被覆を省略した場合の被害抑制効果を調査した。

同剤40L/10a及び60L/10aを、それぞれ前作終了後に所定量の3倍に希釈し、土壌表面散布した2区を設定。2区とも、散布後にハウスサイドを閉めて4日間密閉し、3日間開放した後、通常通り耕耘して播種した。

対照として、2葉期と4葉期にフルフェノクスロン乳剤4000倍液を300L/10a散布した区及び無処理区を設定し、被害抑制効果を比べた。

その結果、同剤を散布した2区とも、対照の2区と比べ被害度は低く抑えられた。8葉期の同虫密度は無処理区よりも有意に少なく、処理量の違いによる効果は同等であった。

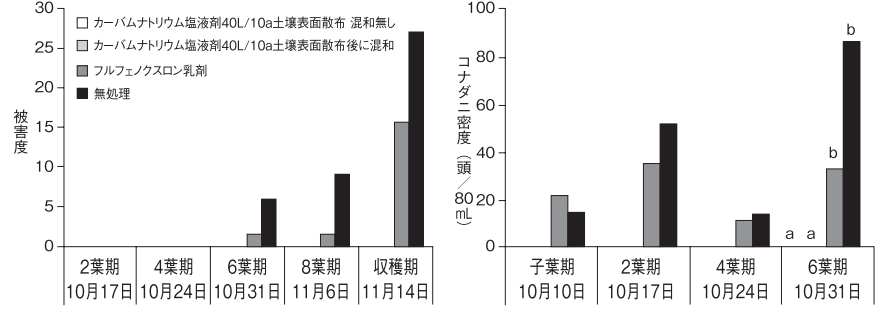
試験2

17年9～11月に県内農家ほ場で試験を行った。同剤の散布量を40L/10aとして、試験1で省略した散布時の混和の有無による効果の違いを調べた。

試験1と同様の管理で、前作終了後、同剤散布時の混和無し・混和有りとした2区を設定。対照には、試験1と同様の2区を設けた。

その結果、2区とも6葉期の同虫密度はほぼ0で推移し、対照の2区に比べ有意に少なく、散布時の混和の有無による効果は同等だった(図)。専用散布器で散布しながら混和する場合でも利用できることが示された。

図 カーバムナトリウム塩液剤散布後の土壌混和の有無がハウレンソウの被害度(左)とコナダニ密度(右)に与える影響



*被害度 各区50株での被害度 A:被害なしの株数、B:コナダニによる奇形葉2枚以内の株数、C:奇形葉3～4枚で褐変なしの株数、D:奇形葉の数に関わらず中心部が褐変し芯止まりの株数を調査し、以下の式に当てはめた。
被害度=(D×5+C×3+B×0.5+A×0)÷調査株数×5)×100
*コナダニ密度 1区当たりの土壌表面の深さ0～3cmの土壌80mLを採取し、当日中にツルグレン装置に設置し、24時間後に抽出されたコナダニ成虫・若虫・幼虫の合計数を顕微鏡下で計数した。
*2017年 周南市鹿野ハウレンソウハウスで実施。カーバムナトリウム塩液剤40L/10a土壌表面散布区混和無しは1区16m×5m=80㎡の1連3ヵ所調査、同剤40L/10a土壌表面散布後に混和は1区6m×5m=30㎡の1連3ヵ所調査、フルフェノクスロン乳剤区と無処理区は1区2m×2m=4㎡の3連試験。
*異なるアルファベット小文字は、統計的に同じでないことを示す。

まとめ

2試験の結果から、以下の簡易処理を行うと高い防除効果が得られる。

- ①同虫は、土中に混和された藻類を増殖源とするため、前作終了後に土壌を混和しない。②少しかん水した後、同剤40L/10aを短時間で全体に均等に撒ける倍率で散布。③ビニール被覆を行わず、ハウスサイドを閉める。④3～4日後にサイドを解放し、3日程度おく。⑤通常通り耕耘して播種する。

18年に行った調査により、従来の土壌消毒法と比較して、作業時間は8分の1以下、費用は半分以下になることが分かった(表)。

Table comparing labor time and cost between traditional and simplified methods. Traditional method: 32min x 1 person = 32min for spraying, 21min x 1 person = 21min for mixing, 38min x 3 people = 114min for covering, 1min x 1 person = 1min for closing, 1min x 1 person = 1min for opening, 42min x 3 people = 126min for removal. Total labor time: 295min. Cost: 5 hours x 802 yen = 4,010 yen for labor, 9L x 600 yen = 5,400 yen for agent. Total: 9,410 yen. Simplified method: 32min x 1 person = 32min for spraying, 0 for mixing, 0 for covering, 1min x 1 person = 1min for closing, 1min x 1 person = 1min for opening, 0 for removal. Total labor time: 34min. Cost: 0.5 hours x 802 yen = 401 yen for labor, 6L x 600 yen = 3,600 yen for agent. Total: 4,001 yen.

2018年10月12日 周南市鹿野ハウレンソウハウスで測定。間口5m×長さ30mハウス(150㎡)当たり
図は山口県農林総合技術センターの資料を一部改変、表は同センター資料より

同センターは注意点として、簡易処理による同剤の使用時期は、播種7日前までであることを挙げている。また、「ハウレンソウケナガコナダニ」を対象とした方法であり、雑草には通常処理と同等の効果があるものの、他の病害に対する効果は散布時期が異なるため期待できないとしている。

秋冬野菜収穫量4%増
2年連続300万t割れ

農水省はこのほど、「18年産指定野菜(秋冬野菜等)及び指定野菜に準ずる野菜の作付面積、収穫量及び出荷量」を公表した。秋冬野菜全体の収穫量は、14年産以来の増加となったが、前年産に続き300万tを割っている。

秋冬野菜

全体の作付面積は、前年産より1200ha(1%)減の9万2800ha。一方、収穫量は12万7000t(4%)増の296万

9000t、出荷量は約11万9000t(5%)増の240万9000tとなった。10a当たり収量は全品目で前年産を上回り、収穫量も秋冬サトイモ以外の品目で増加した。作付面積が伸びたのは冬レタスのみだった。

収穫量が大きく伸びた品目をみると、秋植えバレイショが14%増、冬レタスが13%増、冬ニンジンが8%増となっている。

条件満たした堆肥の利用を
農水省の野菜衛生管理指針

農水省はこのほど、「試行版・野菜の衛生管理指針」をとりまとめた。今後、現場からの意見を基にして、来年度を目処に確定版として改訂する予定としている。

同指針は、食中毒の発生を防ぐために栽培から出荷までの衛生上の注意点をまとめたもので、11年に策定された。試行版では、家畜ふん堆肥の製造や使用上の管理点などを新たに盛り込んだ。最新の研究で明らかとなった「原料ふん中の有害微生物を死滅させるのに必要な条件」などを具体化している。

野菜生産者は、次の①～④の管理が確認できない堆肥を利用する場合、施用～収穫までの期間を、土壌から離れた野菜は2ヵ月、土壌に近い野菜では4ヵ月空ける必要がある。

- ①副資材の利用等による水分調整や定期的な切返し(目安:1ヵ月ごと1回、計3回以上)などによる通気をして、十分発酵させる。②堆積物(目安:堆積2週間後)の内部温度を測定し、55℃以上が3日間以上続いていることを確認する。③堆肥の色が褐色から黒褐色になり、原料の家畜ふんの臭いがほぼなくなったことを確認する。④できあがった堆肥が、原料や製造途中の堆肥に触れないようにする。

これらの品目で

は、いずれも10a当たり収量が1割以上増えている。その要因として、秋植えバレイショは天候に恵まれ肥大が良好だったため。冬レタスと冬ニンジンでは、台風などにより作柄の悪かった前年産に比べ、天候に恵まれて生育が良好だったためとみている。

ハウレンソウ

作付面積は、200ha(1%)減の2万300haで、10a当たり収量は10kg(1%)増加し1120kgと、大きな変化はなかった。そのため、収穫量は前年産並みの22万8300tとなった。

指定野菜に準ずる野菜

全体の作付面積は、1300ha(1%)減の15万700haと減少が続いた。収穫

Table of autumn vegetable production: 14年産 (96,800ha, 3,178,000t), 15年産 (96,100ha, 3,139,000t), 16年産 (94,600ha, 3,021,000t), 17年産 (94,000ha, 2,842,000t), 18(概数) (92,800ha, 2,969,000t). Growth rates are shown for each year.

Table of designated vegetable production: 14年産 (155,700ha, 2,418,000t), 15年産 (154,700ha, 2,380,000t), 16年産 (153,900ha, 2,278,000t), 17年産 (152,000ha, 2,320,000t), 18(概数) (150,700ha, 2,235,000t). Growth rates are shown for each year.

▲はマイナス。農水省の資料を基に作成

量は8万5000t(4%)減の223万5000t、出荷量は6万6000t(3%)減の190万1000tとなった。

収穫量が伸びたのは27品目中4品目と少ない。最も増加したブロッコリーでは、6%増となっている。

最も減少したのは、カボチャで21%減だった。北海道において6月中旬～7月上旬の日照不足や7月下旬からの高温少雨が影響し、10a当たり収量は大幅に減少した。

18年産キウイフルーツ
収穫量17%減

農水省はこのほど、「18年産キウイフルーツの結果樹面積、収穫量及び出荷量」を公表した。天候不順などで収量、収穫量、出荷量が大きく減少した。

結果樹面積は、17年産に比べ50ha(2%)減少して1950haとなった。10a当たり収量は、220kg(15%)下回る

1280kg。収量低下の要因は、7月中旬以降の高温・少雨の影響で果実肥大が抑制されて小玉傾向となったこと、台風による落果・傷果などが発生したこととしている。

収穫量は5000t(17%)減の2万5000t、出荷量は4400t(17%)減の2万1800tと、大きく伸びた17年産から一転して、どちらも2割近く減少し16年産並となった。

青森県産業技術センター畜産研究所

牧草地雑草「イタドリ」サイレージ化
混合給与で飼料として利用可

牧草地では、強害雑草の繁茂が問題となる。混入割合が高いと、意図した飼料成分にならない可能性がある。

(地独) 青森県産業技術センター畜産研究所は、牧草地で発生する強害雑草「イタドリ」をサイレージ化して飼料成分や嗜好性を調査した結果、乳牛の高タンパク質飼料として利用できることを明らかにした。

ほ場調査を行ったところ、牧草地に侵入したイタドリは5月上旬から急速に成長し、5月下旬にはオーチャードグラス(OG)早生品種の草丈80cm・乾物収量367kg/10a(同研究所作況試験5月25日刈り平年値)を上回った(表1)。

粗タンパク質(CP)含有率は成長にともない低下するものの、乾物収量

は増加していくので、CP収量は5月中旬を過ぎても増える。収穫時のCP含有率は1番草、再生草ともにOG出穂期(日本標準飼料成分表09年版)を上回る。

1番草の繊維成分は、成長にともない上昇するものの、収穫時には酸性デタージェント繊維(ADF)・中性デタージェント繊維(NDF)ともにOG1番草出穂期を下回り、2番草でも同様に下回る。

一方、イタドリに含まれるシュウ酸は、2%以上の含有率で中毒を引き起こす可能性があるとされている。1番草、2番草ともに2%を上回るが、牧草や配合飼料との混合給与であれば問題にならない含有率である。

牧草地からイタドリ1番草のみを採

表1 採草地におけるイタドリの収量、飼料成分等の推移(16~17年 青森畜産研)

Table with 10 columns: 調査年度, 番草, 調査日, 草丈(cm), 乾物収量(kg/10a), CP, CP収量(kg/10a), ADF, NDF, シュウ酸. Data for 2016 and 2017.

注1 - は非調査 2 CP:粗タンパク質、ADF:酸性デタージェント繊維、NDF:中性デタージェント繊維

表2 イタドリと他飼料との嗜好性比較 (17年 青森畜産研)

Table with 5 columns: 調査日, 牛個体, CS, AL, JKS. Data for 1日, 2日, 3日.

注1 数値は3種類の飼料の摂取順位 2 CS:トウモロコシサイレージ、AL:アルファルファペレット、JKS:イタドリサイレージ 表1、2ともに青森県産業技術センター畜産研究所の資料より

取しミニサイロで調製したサイレージを、フィステル装着牛の第一胃に投入。投入後48時間まではほぼ直線的に消化され、消化率は90%を超えた。

また、サイレージのVスコアは93.56と高い発酵品質を示した。乳用牛3頭に対して3日間、嗜好試験を行ったと

ころ、トウモロコシサイレージ及びアルファルファペレットよりも先に摂取する牛が多いことから、嗜好性は高いと判断された(表2)。

以上により、牧草地に発生するイタドリは防除の必要がなく、牧草とともに収穫・調製することでサイレージとしての利用が期待できることが分かった。イタドリ混合割合が高ければ、収穫草は高タンパク質・高消化性飼料となる。

同センターは留意点として、収穫草はロールペールごとにイタドリ混合割合が異なるため、精密な飼料設計が必要な牛には給与しないこと、サイレージ調製作業における脱葉などのロスの程度は不明であることを挙げている。

新潟県農業総合研究所畜産研究センター

2産以降の繁殖雌豚 アミノ酸添加玄米の省力的給与
配合3分の1代替で成績維持し費用減

表1 子豚の発育成績(各飼料平均)

Table with 4 columns: 項目\給与飼料, 単位, 配合飼料のみ, アミノ酸添加米. Data for 哺乳日数, 哺育開始頭数, etc.

注1 配合飼料のみ:授乳期用配合飼料のみを給与、アミノ酸添加米:授乳期用配合飼料の3分の1をアミノ酸添加米に置き換えて給与、米:授乳期用配合飼料の3分の1を米に置き換えて給与 注2 各飼料、繁殖雌豚7頭の平均値 注3 同一行の異符号間に有意差あり(a, b, c: P<0.05)

表2 分娩1回当たりの飼料費

Table with 4 columns: 項目\給与飼料, 単位, 配合飼料のみ, アミノ酸添加米. Data for うち配合飼料, うち飼料用米, etc.

注 配合飼料は63円/kg、アミノ酸添加米は35.1円/kg、米は30円/kgで試算 表1、2ともに新潟県農業総合研究所畜産研究センターの資料を一部改変

養豚では、飼料費がコストの多くを占める。国産の飼料用米はコスト削減に有効だが、利用には混合機などの導入や混合作業の労力が必要となる。

新潟県農業総合研究所畜産研究センターは、給与試験を行い、授乳中の繁殖雌豚への低コストで省力的な飼料用玄米給与方法を提案した。

同センターは、配合飼料と比べて飼料用玄米に不足する成分を補完するため、破碎処理(4つ割り)した玄米に3種類のアミノ酸を添加。玄米100kgに対し、リジン0.6kg、トレオニン0.3kg、第二リン酸カルシウムを1kgずつ添加して混合したものを「アミノ酸添加米」とした。

給与試験には、2~3産の繁殖雌豚を供試。試験区(各7頭)として、授乳期用配合飼料のみを給与する区、同配合飼料の3分の1をアミノ酸添加米

で混ぜ置き換える区、同配合飼料の3分の1を玄米のみで混ぜ置き換える区を設定した。各飼料を分娩予定の1週間前から離乳までに給与し、繁殖成績を調査した。

試験の結果、アミノ酸添加米で置き換えた区の子豚の発育成績(表1)、繁殖

雌豚の体重の増減、離乳後の発情回帰日数は、配合飼料のみの給与と変わらなかった。一方、玄米のみで置き換えた区では、子豚の離乳時一腹増体重が他2区よりも低下した。

分娩1回当たりの飼料費を試算すると、アミノ酸添加米で約1800円削減できる(表2)。

以上により、アミノ酸添加米で配合飼料の3分の1を置き換えると、繁殖成績を維持したまま飼料コストの削減効果が見込めることが分かった。また、配合飼料との混合をする手間がないため省力的である。

留意点として、初産の繁殖雌豚と同様に代替給与を行うと、アミノ酸添加米・玄米いずれも子豚の発育成績が低下する。2~3産でも、割合を3分の1以上とすると他の栄養成分が不足し、繁殖成績が低下する可能性がある。

乳用牛群検定全国協議会はこのほど、リーフレット「〈新〉周産期病の予兆は牛群検定から素早くキャッチ！」を公表した。5年前に発行したリーフレットの内容を改訂したもの。

新たに、分娩後60日までの乳成分がその後の繁殖成績などに与える影響を、過去3年の牛群検定成績104万頭のデータを用いて解析した。

例えば、分娩後60日以内の乳脂率が

5%以上だと、5%未満と比べて不受胎の比率が5.4%、次産との分娩間隔が6日間増えている。さらに、体脂肪分解による肝臓の負担が大きいため、淘汰される比率は5.4%高い。

同様に、検定成績表の乳タンパク質率やP/F比などの値による傾向の違いが示されている。

リーフレットは、同協議会のホームページからみることができる。

養豚排水のBOD測定迅速化
農研機構など、新システム開発

農研機構畜産研究部門などの研究グループはこのほど、「発電細菌」の利用による新たな水質監視システムを開発した。同システムを用いれば、養豚排水の水質測定時間の大幅な短縮につながり、浄化性能の向上や電力の省エネが期待される。

水の汚れの指標としては、BOD(生物化学的酸素要求量)が用いられ、値が低いほど清浄な水とされている。しかし、現行の測定法では、結果を得るまでに5日間かかるため、水質の変化に対応した運転制御は難しい。

同システムには、酸素がない環境で有機物を分解する際に電気を発生する性質をもつ「発電細菌」を用いたセン



農研機構の資料より

サーが組み込まれている。排水中のBOD値と菌が発生する電流の間に相関があることを利用。測定結果は6時間で得られ、現行法よりも大幅に短縮できる。

また、自動測定できるため、作業員が取水するなどの手間は不要。IoT機能により水質データはWebサーバーに保管され、PCや手持ちのスマートフォンでいつでも確認できる(図)。一定の値を超えた場合などに知らせる機能も備える。測定したBOD値に応じて、無駄な曝気時間を減らすなど、効率的な運転ができると期待される。

研究グループは、農研機構の他、山形、千葉、熊本、宮崎、沖縄の公設試験研究機関と民間企業3社で構成。来年度中に、同システムの販売開始を予定している。

水質汚濁防止法による畜産の暫定排水基準は、この7月に硝酸性窒素等が500mg/Lへ引き下げられたばかり。今後も厳格化される可能性があるため、排水処理施設の能力向上が望まれる。

佐賀県畜産試験場

肥育牛ふん堆肥 暗きょ管設置で発酵促進 安価で作業効率向上

肥育牛のふん尿を良質な堆肥にするには、発酵の促進と水分の低下が重要となる。通気装置の無い無通気型の堆肥舎では、ローダーなどによる切り返しに時間や労力がかかるため、簡易に発酵を促進できる技術が必要とされている。

佐賀県畜産試験場は、市販のポリエチレン製全面開孔型暗きょ管（以下、ネトロンパイプ）をふん堆肥に縦方向に埋め込む試験を行い、自然通気で発酵を促進する方法を考案した。

試験方法

ネトロンパイプを設置する「試験区」と、設置しない「対照区」の2区を設けた。期間は、両区とも1次堆肥化期間の8週間（2週間ごとに切り返し）、2次発酵期間の9週間（切り返しもパイプによる通気も行わない）の合計17週間とした。敷料におが粉を使用した

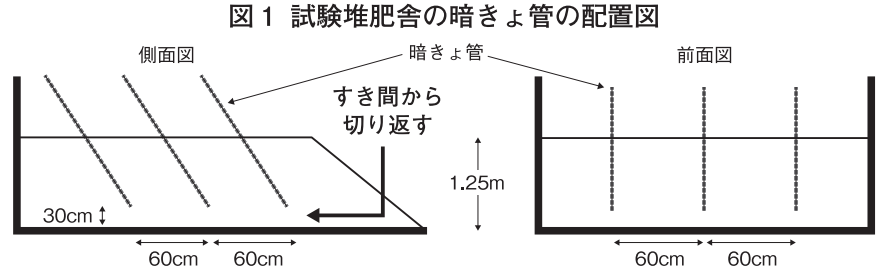
同試験場の肥育牛ふんを供試した。

試験区は、牛舎から運び出し1.25mの高さに積んだふん堆肥に、縦方向（上から）に60cm間隔で9本のネトロンパイプ（1600円/4mのものを半分にカットして使用した）を埋め込む（図1）。垂直に立てるのは困難なため、45～60度の角度で埋設した。また、ローダーでの切り返し時に撤去を行うため、地面から30cm離して埋め込んだ。

切り返し時の作業性を調査し、堆肥中の水分、有機物などを測定した。堆肥中の温度は、表層部（深さ40cm）と深部（同80cm）を堆肥用温度センサーで60分ごとに測定した。

試験結果

切り返し時のパイプの撤去・再埋設のためローダー操縦者以外にもう1人の作業者が必要となるが、底面とのすき間があることで切り返し時にパイプ



が破損することなく、作業は容易にできた。留意点として、試験区は1次堆肥化期間で水分が低下し過ぎて有機物の分解がなくなつたため、その後は加水して堆肥化する必要があるとしている。

堆肥の成分をみると、水分値は試験区で52%（開始時）→35%（8週目）→27%（17週目）、対照区で50%（開始時）→44%（8週目）→36%（17週目）にそれぞれ低下した（図2）。17週目には、試験区の方が9%水分含量を低く抑えられた。pHは、試験区・対照区に大きな差がなかった。

堆肥温度の推移は、試験区で2週目まで上昇が大きかった。8週目の物質収支では、重量比は、試験区で64.7%と対照区よりも21.6%重量が減少し、終了時にはそれぞれ54.0%、56.0%で

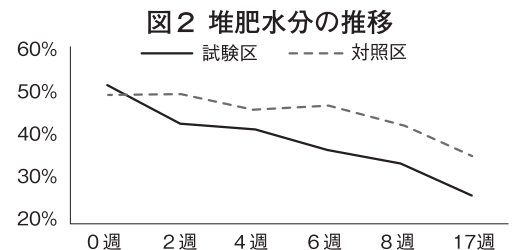


図1は佐賀県畜産試験場資料を一部改変、図2は同試験場資料より

同等だった。8週目の水分蒸散率は試験区が60.6%、対照区が38.1%、有機物分解率はそれぞれ23.3%、20.0%で、試験区が高くなった。

以上のことから、ネトロンパイプの埋設は、1次堆肥化期間での堆肥の発酵の促進効果が認められた。また、パイプの上面は堆肥で目詰まりするが、側面・底面にはみられなかった。高圧洗浄機で容易に洗浄でき、曲がった部分は人力で真っすぐに直せるため、再利用が可能であるとしている。

女性が積極的に情報収集を

全国畜産縦断いきいきネットワーク大会

畜産・酪農に携わる女性たちが連携して設立した「全国畜産縦断いきいきネットワーク」の19年度大会が8月22日、都内で開催された。

今年のテーマは「女（ひと）と男（ひと）ですすむ経営参画～ともに歩み出そう、新しい時代へ」。生産者・関係者など計159名が参加した。基調講演の他、パネルディスカッション、恒例の1分間スピーチなどが行われ、活発な意見発信と情報交換で賑わった。

冒頭、小林陽子会長（三重・養豚）は、「時代が変わっても、農は国の基、食は命。消費者に安心安全な畜産物を届ける農家でありたい。今も畜産は厳しい状況。不安な時こそ、ともに活動する仲間を心強く感じる」と連帯の強化を促した。

パネルディスカッションでは、現場からみえる女性の経営参加のために必要なことやメリットなどが話し合われた。柴田輝雄氏（秋田・酪農）は、「男性が女性を積極的に外に出す、むしろ出てもらうべき。自分の妻は積極的に地域の仲間と集まり、経営や飼養管理などで自分も知らなかった情報を得て、帰ってきてくれる」と語った。

また、畜舎の火事を経験したメンバーが、似た状況を経験したネットワークの仲間に教えてもらった方法で、復旧費用を一桁以上安く抑えることがで

きた経験を語り、外に出て女性が情報収集をする意義を改めて強調した。質問者の問いかけには、家族協定の締結がより進む仕組みを考えてほしい、という提案も出された。

加藤美子氏（三重・和牛一貫経営）からは、「昔は忙しくて来られなかったが、仲間が諦めず誘い続けてくれた。何度か断られても、根気よく声をかけ続けることが大切」と、女性が外に出

やすい環境づくりのコツを、実体験を交えて語った。他の登壇者たちや質問者の発言から、「お茶会など小さな会からでも積極的に集まる」・「地域のリーダー格になれる人が情報交換の場に連れ出す」・「農水省などが表彰や通達で積極的に集結を促すことが大切」とまとめた。

恒例の1分間スピーチでは、今年は豚コレラで参加できなかった仲間に言及する参加者が複数おり、「口蹄疫の時に苦労したメンバーの経験も合わせて、家畜を殺処分することが無いよう、畜種を超えて防疫対策に力を入れていこう」と呼びかけた。先崎幸江氏（福



島・和牛肥育）は、「震災の時、ネットワークの人たちが支えてくれた。その助け合いをきっかけに、家族も行ってこいと毎年送り出してくれる。こうした助け合いの輪は大切だ」と語った。

最後に、田中真紀子氏（神奈川・酪農）の朗読による大会宣言が採択され、閉会した。

ナルトサワギク中毒の対策 牛の誤食に注意

近年、日本全体の高温化により全国的にナルトサワギクの発生が確認されている。特に、本州中部から九州にかけて問題になっているため、形状・特徴を覚え、発見次第駆除することが重要となる。

マダガスカル原産の特定外来植物で、元々は温暖な地域のみで確認されていた。

繁殖力が非常に強く、どこにでも生える。タンポポに似た綿毛を風で飛ばし、1年中増殖する。アルカロイド系の毒があり、放牧地などで牛が誤って食べると中毒症状を起こす。嘔吐・下痢・肝障害などの被害が出る恐れもある。

○見た目の特徴

花の直径は1円玉程度の大きさ。花は黄色で、花びらにはギザギザはなく、平坦な形をしている（写真）。花も葉も小ぶりだが、高さは50cm以上になる。また、地際で枝分かれし広がっている。花の枝が何度も枝分かれしており、葉の側面には小さなトゲが並んでいるが、変異の多い植物のため、様々な形の葉が存在する。また、葉の根元が茎に巻き付いているのが特徴。

○対策方法

最も有効な対策は、根ごと抜き取る。根は比較的浅く、抜き取りやすい。手やスコップで抜き取る。素手で触っても害はないが、人体への影響があるため、植物体の汁に触れないよう、軍手・長袖を着用する。地際で刈り取る手法も考えられるが、広範囲に繁殖している場合を除き、人手による抜き

ナルトサワギクの特徴



千葉県生物多様性センター資料より作成

取りが望ましい。また、未開花状態のものも混在していることが多いので、花が咲いていなくても抜き取る。

植物体（種子含む）の移動は法律で禁止されているため、その場で袋に詰め、引き抜いた場所付近で2～3日天日にさらして枯死させる。枯死後は、燃えるゴミとして処分できる。刈り取っても枯れていない限り毒性があるので、飼料などへの混入を避けるため、野積みは避ける。

畜産物需給見通し

牛枝肉

節約志向で、乳牛去勢・交雑種はもちあいか

長梅雨明けから全国的に気温が上昇し、8月は猛暑となった。消費の盛り上がりには欠け、相場はやや弱含みで推移した。10月からの消費税増税にともなう出費増の影響により、牛肉の買い控えが懸念される。

【乳去勢】8月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は1020円(前年同月比98%)となり、前月に比べ4円上げた。

農畜産業振興機構の需給予測によると、9月の乳用種の全国出荷頭数を前年並みの2万7400頭(100%)と見込んでいる。9月の輸入量総量は5万1900t(99%)と予測。うち冷蔵品は、前年、台風による倉庫の浸水被害などで同月の輸入量が少なかったことから、かなり上回る2万2300t(107%)、冷凍品は現在の在庫量が高水準であることから、下回る2万9600t(94%)としている。

【F₁去勢】8月の東京市場の交雑種(F₁)去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1677円(前年同月比109%)、B2は1544円(114%)となった。前月に比べ、それぞれ41円、27円上げた。

同機構は、9月の交雑種の全国出荷頭数を1万9000頭(99%)と、引き続き前年を下回ると予測している。

【和去勢】8月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が2375

円(前年同月比97%)、A3は2173円(99%)となった。前月に比べ、それぞれ25円、15円下げた。出荷頭数の増加などから、前月に比べやや弱含みで推移した。

消費者 低価格志向強

同機構は、9月の和牛の全国出荷頭数を3万7100頭(110%)と、引き続き前年をかなり上回ると予測している。全品種の出荷頭数は、8万5000頭(104%)と見込んでいる。

消費税増税がスタートする。消費者の低価格志向、節約志向が一層強まることと予想される。また、外食は軽減税率の対象外のため、影響が大きいとみられる。

需要の端境期に入り、全体的に荷動きが鈍くなる。

今年、消費者の出費の切り詰めが加わる。高値の和牛は、出荷頭数が増えていることもあり、上位等級が弱含む一方、3等級は堅調な展開となるか。乳牛去勢、交雑種は出荷頭数が少ないことと値ごろ感から、大きな下げはなく、もちあいの推移が予想される。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が1000~1050円、F₁去勢B3が1600~1650円、B2は1500~1550円、和牛去勢A4が2300~2400円、A3は2150~2250円での相場展開か。

8月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	697	707	301	299	221,480	227,516	736	761
	F ₁ 去	698	1,103	321	318	463,259	507,402	1,443	1,596
	和去	1,016	1,793	312	311	765,087	796,231	2,452	2,560
東北	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	11	12	302	306	459,785	456,300	1,520	1,490
	和去	1,695	1,901	306	306	780,034	757,111	2,551	2,473
関東	乳去	19	11	292	250	247,377	195,382	848	782
	F ₁ 去	140	135	302	310	451,632	486,271	1,497	1,566
	和去	941	780	264	266	759,625	727,565	2,875	2,733
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	-	77	-	281	-	720,822	-	2,565
東海	乳去	14	7	287	290	259,817	283,114	905	976
	F ₁ 去	89	74	299	304	438,625	484,234	1,465	1,593
	和去	261	393	248	267	772,174	790,835	3,117	2,959
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	1	-	140	-	325,080	-	2,322
	和去	184	403	254	255	929,263	957,737	3,659	3,757
中四国	乳去	66	102	274	279	202,810	206,746	739	740
	F ₁ 去	215	226	305	309	483,407	489,455	1,582	1,586
	和去	632	749	287	290	761,138	774,775	2,656	2,669
九州・沖縄	乳去	32	37	284	283	247,320	234,944	870	830
	F ₁ 去	285	353	317	313	471,357	488,621	1,488	1,563
	和去	6,211	9,525	292	292	815,727	810,951	2,796	2,778
全国	乳去	828	864	298	295	222,233	225,423	746	764
	F ₁ 去	1,438	1,904	314	315	465,193	498,973	1,482	1,584
	和去	10,940	15,621	291	293	798,385	799,763	2,744	2,730

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

重量ベース 肉類自給率、51%に低下

18年度年間消費量は2.3%増

農水省がこのほど公表した18年度食料需給表によると、肉類(牛・豚・鶏肉、その他の肉)の重量ベースの自給率は前年度に比べ1.1%低下し、51%となった。15年度から4年連続で1.1%ずつ低下した。需要の高まりを背景に、輸入品の割合が高まっている。

肉類の国内生産量(枝肉換算、以下同じ)は336万6千t(前年度比1.2%増)、輸入量は319万6千t(2.2%増)だった。国内生産量のうち、牛肉は47万6千t(1.1%増)、豚肉は128万2千t(0.8%増)、鶏肉は160万t(1.6%増)。輸入量のうち、牛肉は88万6千t(8.4%増)、豚肉は134万5千t(0.9%減)、鶏肉は91万4千t(1.0%増)だった。

国内生産量と輸入量の合計から輸出量を差し引き、在庫の増減量を考慮した「国内消費仕向量」は、肉類

全体で654万5千t(2.1%増)だった。

畜種別の自給率(国内生産量/国内消費仕向量×100)は、牛肉が前年と同じ36%、豚肉が3年連続1.1%低下の48%、鶏肉が前年と同じ64%となった。

なお、飼料自給率(18年度：1.1%低下の25%)を反映してカロリーベースで計算すると、肉類全体で7%、牛肉は10%、豚肉は6%、鶏肉は8%になる。

肉類の国民1人・1年当たり供給純食料(精肉換算、年間消費量に相当)は、33.5kg(2.3%増)だった。うち牛肉は6.5kg(3.4%増)、豚肉は12.9kg(1.1%増)、鶏肉は13.8kg(2.9%増)と、3畜種とも増えた。

近年、肉類の消費量は増加傾向で推移しているが、国内生産量の伸びが小幅で供給量が不足している。そのため、輸入量が増え、自給率は低下傾向で推移している。

豚枝肉

出荷減の可能性も在庫多く、相場は弱気配に

8月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が561円(前年同月比91%)、中物は541円(93%)となった。前月に比べ、上物は1円下げ、中物は7円上げた。

猛暑の影響で全国的に出荷頭数が鈍ったが、量販店等では輸入品の取り扱いが多い。上・中旬は堅調だったが、下旬には軟調な展開になった。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、9月は前年同月を上回る129万5000頭(前年同月比103%、過去5年同月平均比98%)、10月は下回る142万頭(95%、99%)と見込んでいる。

素牛

スモール

乳子牛は高値継続し、和子牛はもちあいか

【乳素牛】8月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、暫定値)は、乳去勢が22万2233円(前年同月比97%)、F₁去勢が46万5193円(105%)となった。前月に比べ、それぞれ3190円、3万3780円下げた。F₁去勢は、北海道や東海で値を下げた。

両品種の枝肉相場は依然堅調に推移していることから、高値が継続すると予想される。

【スモール】8月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、暫定値)は、乳雄が10万9114円(前年同月比93%)、F₁(雄雌含む)は28万1821円(111%)となった。

農畜産業振興機構の需給予測によると、9月の輸入量は総量で7万3400t(106%)の見込み。内訳は、冷蔵品が3万1700t(104%)、冷凍品が4万1700t(108%)。国産品と輸入品を合わせた9月末の期末在庫量は22万2500t(133%)と、前年同月を大幅に大きく上回ると予測している。

出荷頭数は、豚コレラや豚伝染性下痢(PED)の発生、残暑の影響で、予測を下回る可能性がある。他方、在庫量が例年になく多く、荷余り感から、需給が緩む見込み。相場は弱気配の展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が520~550円、中物は470~500円での相場展開か。

前月に比べ、それぞれ2万5693円、4万302円下げた。暑熱ストレスの懸念などから、引き合いが鈍った。

乳用牛群検定全国協議会公表の「子牛の生産予測情報」によると、19年4月~20年1月の乳用種雄と交雑種雄雌の出生頭数は、ともに前年同期に比べ減少する見込み。品薄傾向が続き、高値の展開が予想される。

【和子牛】8月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、79万8385円(前年同月比99%)となった。前月に比べ1378円下げた。偶数月で開催市場は少なかったが、枝肉相場が振るわず、ほぼ横ばいだった。

和牛枝肉相場は、弱含みの展開が予想されている。当面、子牛の相場はもちあいの展開が続くか。